

放射性物質の影響を受けたイノシシ等の軟化処理施設建設・運営の手引き（概要版）

1. 背景と目的

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難指示等によりイノシシ等の有害鳥獣の生息数が増加したことにより、有害鳥獣による被害が深刻な状況となっており、捕獲の推進により被害防止に努めているところである。捕獲後の有害鳥獣は仮埋設により対応していたが、埋設場所がひっ迫してきている。

本手引きは、これらの状況を踏まえ、有識者からなる検討会において、イノシシ等の焼却処理に必要な前処理としての軟化処理の手法を整理し、その成果として迅速かつ適正に焼却処理を推進するための前処理施設整備から運営までの手法を示したものである。

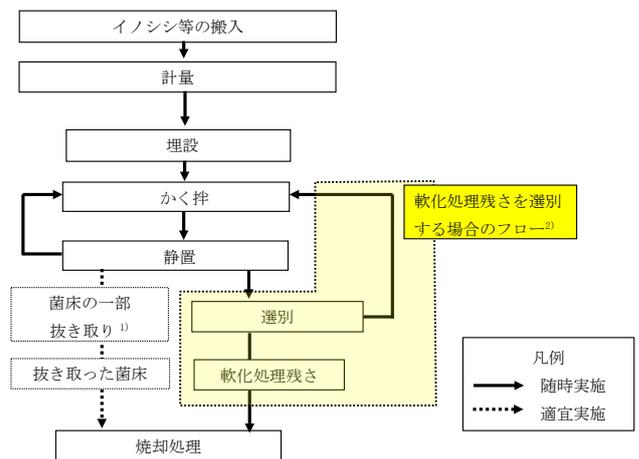
2. 軟化処理の概要

1) 基本フロー

イノシシは個体が大きいいためそのまま焼却炉へ投入することは困難であり、前処理が必要である。軟化処理は、牛ふん、木材チップを混合し熟成させた菌床にイノシシ等を埋設し、好気性分解して焼却可能とするものである。

2) 菌床の準備

菌床は牛ふん、木材チップで製作する。混合後の水分が55～65%となるよう調整する。混合後、菌床温度が50℃以上になればイノシシ等の埋設が可能である。



備考：1) 菌床の放射性物質濃度、アンモニア濃度が上昇した時点や菌床中に骨等の残さが目立つようになった時点

3) イノシシ等の埋設・かく拌

菌床上にイノシシ等を置き、その上を菌床で覆う。埋設から概ね1週間後に重機等でかく拌を行い、酸素を供給する。埋設から2週間程度で、容易に焼却できる程度まで分解できる。

4) 施設概要

施設は主に軟化槽、脱臭装置、受入ボックスより構成される。

5) 運営管理

運営管理として、計量等の搬入管理、埋設・攪拌作業や菌床の温度・水分・放射性物質濃度・悪臭測定等の運転管理を行う。

放射線管理として、管理区域を設置するとともに、施設壁面の汚染検査、空気中の放射性物質濃度及び粉じん測定、敷地境界における空間線量率測定、処理対象物の表面線量率、作業環境における空間線量率測定等を実施する。また、作業員の個人被ばく管理として、外部被ばく線量測定、内部被ばく線量測定、健康診断を実施し、記録を保存する。